

うたごよみ 曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

淑氣満つ宮に六基の五輪塔しゆくきみ

池田

安起徒

踏み入れば音立て沈む霜の畑

古藤

まゆ美

仁王像在す村道冬温しにおうぞうおわ

泊康

大隅俳句会

走り根を踏みし参道初参り

逆瀬川

節子

一会なる人と交わせる年賀状いちえ

岩重

みどり

大寒の風となりたる鳥つづて

大川満

大根提げ婆は娘の住む方へ

福村

よう子

短歌

末吉短歌会

尺八と琴の調べが流れる

障子の間より秋みつる夜

草野

ミツ子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

暖き日和い

炬燵ち折曲い

不精者

鈴木

一泉

晴天日和

日向ぼっこで

居床寝

浜田

一好

よか日和 遊つけ行こも
金が無し

桐野

奈世

段取りが 日中で変い
農業仕事

古川

一幹

大隅薩摩狂句会

DNA どげんも出来ん
短け足

神宮司

素水

西郷どんの ブームい商店も
絞い知恵

福元

多喜子

気の病氣 医者よか金が
薬いなつ

境

すやすや

返事しや良かが 女房はへつちな
動かせじ

西山

美代子